



大手前大学 現代社会学部 准教授
本田 直也

大手前大学における情報教育の再構築

はじめに

本学では社会で求められている情報活用力を全学生が習得する事を目的として1年次必修科目「情報活用」を開講し、入学者約800名に対して複数クラス同時展開しています。この授業では目指すべき目標を明確にしています。そして、どのクラスに配属され、どの教員から教わっても同じ実力を身につけることができるよう統一カリキュラムに従った授業を行っています。

「情報活用」の学習目標を明確化するために、情報活用力試験Rastiを導入しました。RastiはNPO法人ICT利活用力推進機構によって主催されている選択式問題のWebベーステストです。情報活用力を1,000点満点で算出し実力を評価し、受験者には診断シートにて獲得点数や分野ごとの得意不得意が示されます。「情報活用」ではRastiの点数を向上させる、という目標を設定し、その点数を用いて成績評価することを学生に伝えています。また同時に、各教員、各クラスの教育効果を測る指標でもあることを授業担当の教員に伝えています。クラスの平均点を伸ばした教員は教育効果が高かったことを意味するのです。教育効果の高かったクラスの手法をFD(ファカルティ・ディベロップメント; 教員の教育能力を高めるための組織的な研究・研修)で検証し、教員同士の意見交換を行い教育力の向上を目指しています。

ここでは、2007年度「情報活用」の実践結果を用いて、本学における情報教育の取り組みについて簡潔に述べます。

授業計画

本学は Semester 制を採用し、春学期15回と秋学期15回のそれぞれ完結型の授業を実施しています。春学期「情報活用」ではパソコンの基本操作の習得に専念し、学生間のスキルの差を埋め、足並みを揃えることに重点を置いています。一方秋学期は、情報活用力、すなわち「情報を集め、分析、整理し、他者に適切に伝える力」を育成する授業と位置づけています。秋学期の学習項目は次の通りです。そして、この学習項目はRastiに準拠しているものです。

[情報検索、情報運用、数値分析、データベース、ファイル管理、データ管理、インターネットコミュニケーション、文書表現、ビジュアル表現、プレゼンテーション]

2007年度は秋学期の第1回と第15回の授業時にRastiを実施しました。この2回の測定により秋学期の学習成果として点数の伸びを測ることができます。また、第1回授業にRastiを実施することで、その学期にどんな学習を行い、どんな力を身につけるのかを学生に明確に示すことができます。

授業手法や時間配分、学習資料の取捨選択、学習項目の重み付けなどにおいて、教員の自由な裁量もある程度確保されています。教員が自分の経験や手慣れた手法を取り入れた授業実践を行う事も可能なカリキュラムとなっているわけです。教員同士で工夫点を共有して協力関係をとることもあれば、実験的に独自の手法を試したり、他のクラスに負けないよう独自のアイデアを盛り込んだりと、様々な取り組みを行っています。

教育効果 1 . Rasti 得点向上

Rastiでは立場・役割別の得点基準が示されています。大学入学時の基準得点は450点、新卒社会人に求められる点数は550点と設定されていることから、本学では1年次終了時点での目標点数を500点と決めました。この点数は学生個人の目標点数として設定すると共に、教員に対してはクラスの学生を一人でも多くの学生に500点を超えさせる事を目標として明示しています。

第1回授業を行った2007年9月と、第15回授業の2008年2月にそれぞれRastiを実施しました。1学年860名を16クラスに分けて授業を行っていたので、1クラスのサイズは約54名でした。クラス別のRasti平均点と点数の伸びを表1に示します。なお、ここでは第15回のRasti平均点が高い上位5クラスを抽出して示すことにします。

表1 クラス別Rasti平均点の比較(上位5クラス)

クラス	第1回平均点	第15回平均点	伸び
J13	402	497	94
J02	419	492	73
J03	417	491	74
J01	407	475	67
J09	396	472	75
全体	399	458	59
最高点	—	497	94
次点	—	492	75

まず、学年全体の結果に着目します。第1回授業時の受験者平均点が約400点と、目標点数には大きな開きがある状態でした。しかし、秋学期全15回の限られた期間で受験者平均点を60点近く伸ばした事は十分な成果があったと言えます。

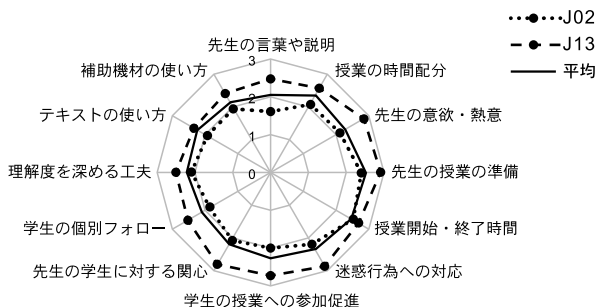
次に、第15回の平均点が高かったクラスに着目します。J13クラスは平均点が目標点数の500点にきわめて近く、点数の伸びも飛び抜けて大きいため教育効果が高かったクラスであると言えます。J02クラスはJ13クラスに次いで高得点を獲得しています。このクラスも教育効果の高かったクラスであると言えます。

教育効果 2 .授業評価アンケート

秋学期末2月にRastiを実施すると同時に授業評価アンケートも行っています。項目は教員評価、学習評価、科目評価に分かれています。ここでは教員評価に着目します。教員評価は12項目設定されており、評価は、大変良い(3

点) 良い(2点) 悪い(1点) 大変悪い(0点) の4段階となっています。ここでは、第15回のRasti平均点が高かった上位2クラスJ02、J13に着目し、授業評価アンケートのクラス平均値を図1に示します。

図1 授業評価アンケートクラス平均値J02, J13



J13クラスは学生から高い評価を受けており、Rasti得点向上においても授業評価アンケートにおいても高い水準の教育が提供できていると言えます。J02クラスではRasti得点は次点でしたが、授業評価アンケートの結果は各項目とも平均を下回る結果となりました。Rastiの点数を伸ばすという主目的に力点を置きすぎた結果であると言えます。

学期末や年度の節目に教育効果を振り返るためのFDを実施していますが、結果の検証や教育手法を共有する上でRasti得点だけでなく、授業評価アンケートの結果も用いています。学力向上のみならず、学生からの教員評価が向上することも目指し、日々努力しているのです。

おわりに

2007年度より新しく始まった情報教育における取り組みは、2010年度現在、4年目を迎えます。これまで、「情報活用」担当教員によるFDや授業実施前後のミーティングを重ねてきました。教育力を向上させるための基盤が確立されたいま、本学では社会の要求に応える教育成果を挙げることが今後の目標であると考えています。